

中海・宍道湖底質改良実証実験事業 サルボウ天然稚貝発生状況調査

清川智之・向井哲也・山根恭道・中村幹雄

はじめに

一昨年の付着物調査（平成6年7月～9月）により、サルボウ稚貝の発生が確認された。そのため、サルボウの存在を明らかにするとともに、天然採苗によるサルボウ増殖の可能性について検討する目的で平成7年度、8年度に本調査を行った。なお、この調査は中海漁協と共同で実施した。

材料と方法

実施時期と場所

平成8年度は平成7年度の調査で採苗数が多かった大海崎沖に3点を設定して調査を行った（図1：A点については水深2m、B、C点については水深4mの地点で実施）。

調査期間については平成7年度に採苗数が多かった9月（9/13～10/16）、10月（10/16～11/20）の2回とした。

採苗器と設置方法

試験施設概念図を図2に示した。宍道湖では平成4年度からヤマトシジミの天然採苗試験を実施しているが、平成7年度の調査同様、平成8年度もこの方法に準じた。採苗器は水面下0.5mから1m間隔で設置した。第1回目の調査では、この採苗器のほか、サルボウがよく付着するとされる樹網用の網地（使い古しのもの）も併せて用いた。設置には、竹をH型に組んで水中に突き刺したものに、それぞれの採苗器をぶら下げた。なお、採苗器の下部にはおもりとして小型のコンクリートブロックを取り付けた。

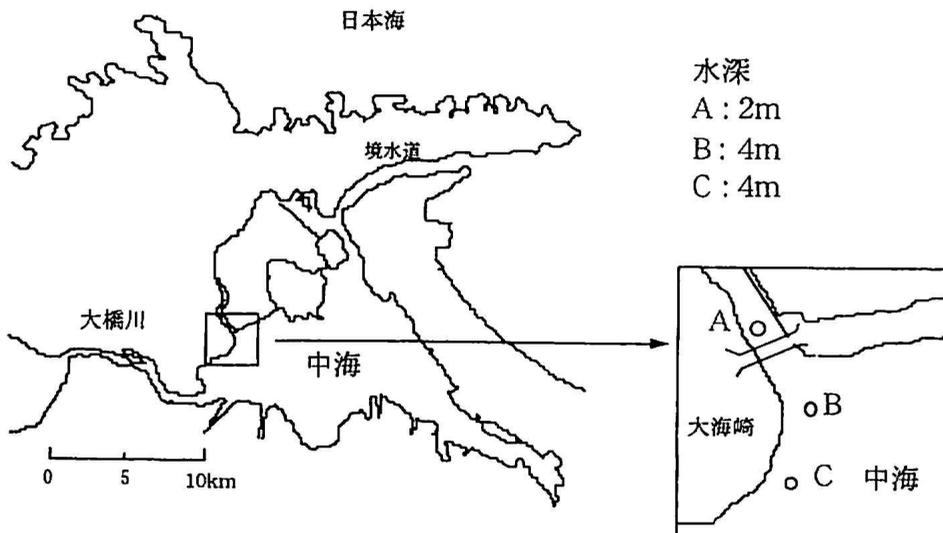


図1 サルボウ天然採苗調査地点図

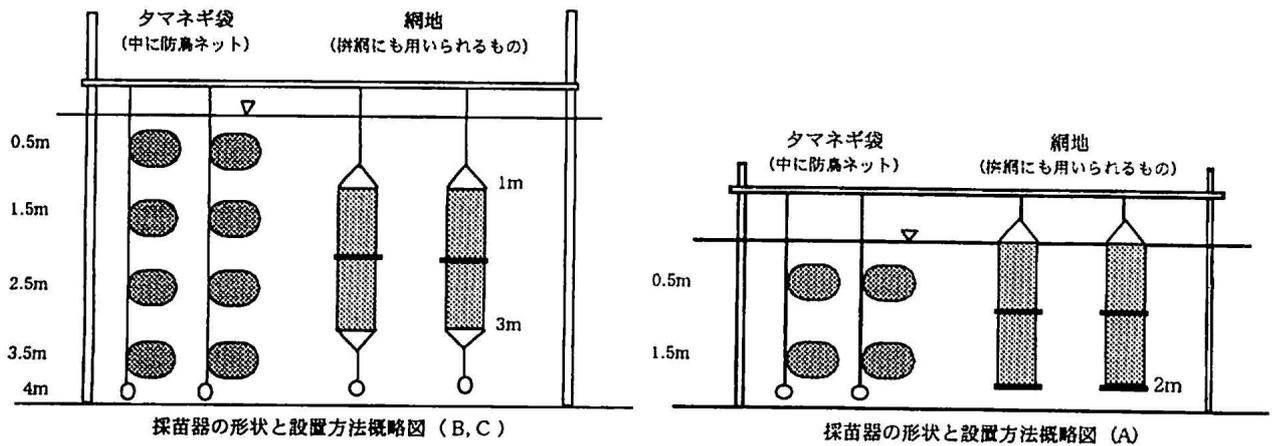


図2 サルボウ天然採苗試験施設概念図

結果と考察

平成8年度の調査ではサルボウの稚貝が全く採集できなかった。この原因については採苗器投入時期が遅かったこと、調査地点が沿岸に近すぎて潮流が入ってこないため、採苗器設置場所に稚貝幼生の流入がみられなかったこと等が考えられるが、詳細は不明である。

近年のサルボウ漁獲量は皆無に等しく、分布密度も低いことから、資源水準は低いと考えられる。しかし、一昨年のように稚貝が大量に採集されることもあるため、気象条件等により大量に発生する可能性も考えられる。そのためサルボウは、サルボウにとって良好な環境を整えることにより、中海で大量に増殖する可能性があるといえる。

なお、来年度から宍道湖・中海水産振興対策検討事業においてアサリ・サルボウの調査が始まるが、平成8年度はその予備試験として、サルボウ親貝分布予備調査等によりサルボウの分布状況を調べた。図3にその結果を示したが、中海各地でサルボウの存在が確認された。

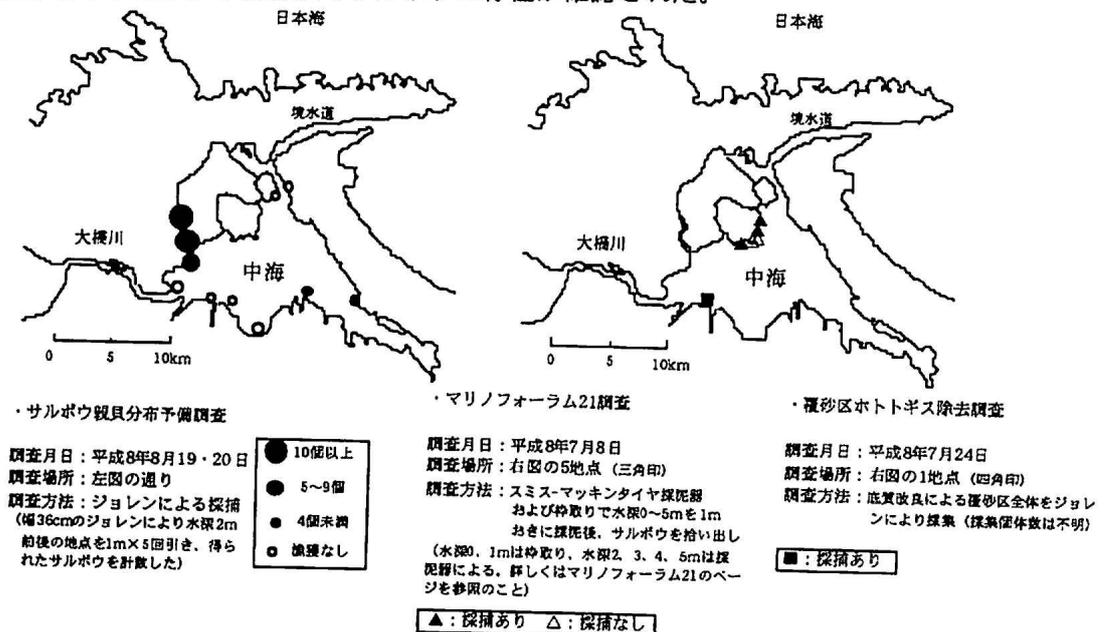


図3 平成8年度にサルボウが採集された調査一覧